

特集2

多職種連携の
キーパーソン
に聞く!

骨粗鬆症マネージャーの

理学療法士

加藤木丈英さん



出張講演会では講師として、聖隷佐倉市民病院のリエゾンサービスの実例や経験談を紹介したり、理学療法士としてのアドバイスをしています。昨年10月には、北海道で講演する機会をいただきました。私たちの活動が、全国に広がっていくとうれしいですね。以前、「笑顔プロジェクト」という院内での短期留学制度を利用して、検診センターの業務を手伝いながら要精検と判定された患者さんに運動指導を行いました。今後は佐倉市の検診にも参加したり、FRAX[®]を利用したスクリーニングの導入なども検討していきたいと考えています。

家族ぐるみで、沖縄の伝統芸能「エイサー」に参加して太鼓を叩いています。エイサーは本土の盆踊りのようなもので、11年間楽しく続けています。テレビ出演の経験もあるんですよ。



看護師

椎名祐子さん



外来や病棟で接する患者さんから、栄養、運動、薬剤に関して、いろいろ質問を受けることも多いので、さまざまなスタッフにアドバイスをお願いしています。新たに設立される骨折の二次予防を目的とした外来での取り組み方を考えています。午前中の外来での業務と午後から始まる病棟での通常業務や、夜勤を含めた時間配分が今後の課題ですね。

旅行が趣味で、「温泉ソムリエ」の資格を持っているスタッフからオススメされた温泉を訪ねたりしています。



薬剤師

秋山宏美さん



地域連携パスを開始してから、70%以上の患者さんが退院後に治療を継続しているという結果が出たときはうれしかったです！ 病院が主催する市民公開講座を開催した時に、骨粗鬆症治療薬に興味を持っている参加者が多く、治療薬を処方する際の説明が重要だと改めて認識しました。治療方針の確認が必要な場合などは、基本的には医師に直接口頭で質問していますが、医師が多忙な場合は、質問事項を書いた手紙をカルテに挟んで、翌日に返事を確認しています。

甘い物とお肉が好きで、休日はおいしいものを食べて癒されています。テパ地下も大好きです。



本音トーク

聖隷佐倉市民病院で活躍する骨粗鬆症マネージャーたちに、日々の業務で心がけている点や、今後の課題、仕事に疲れたときの息抜きやマイブームまで、本音で語っていただきました。

看護師

宮崎木の実さん



患者さんから質問を受けたら、後で専門のスタッフに確認して、それぞれの職種で認識が食い違うことのないように気をつけています。そんなふうにしてスタッフ同士が分け隔てなく率直に話し合うことで、毎日良い刺激を受けていることを実感します。

ちなみに、先日大腿骨近位部の検査を受けてみたら、骨密度がYAMの60%弱で自分が骨粗鬆症だとわかって驚きました。医師からの勧めもあって、患者向けの講演会でそんな自分の経験を語ってみました。実際に、大腿骨近位部骨折で入院する患者さんをたくさん目にしていますから、自分も骨折しないよう気をつけています。最近、仕事の合間にロコモ体操をして、近くにいるスタッフにも勧めています。

頭を空っぽにして、2時間物のサスペンスドラマを見るのが好きです！

管理栄養士

岐部尚美さん

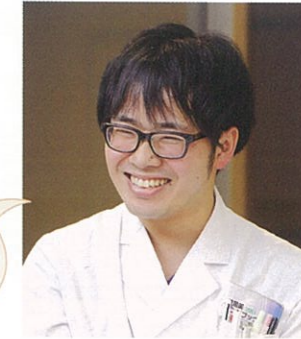


ほとんどの患者さんは骨粗鬆症や関節疾患に加えて、糖尿病、高血圧、腎疾患、脂質異常症など、さまざまな生活習慣病を併せ持っています。患者さんの生活をチェックして、まずはそれぞれの原疾患に合わせた指導をしながら、必要に応じてカルシウムの多い食品の摂取を勧めます。ただ、あまりカルシウム摂取を強調しすぎると、牛乳など特定の食品をとり過ぎてしまうこともあるので注意が必要です。とにかくバランスの良い食事が重要ですから、マスコミで大きくとりあげられた食品にすぐ飛びついたりしないように注意することもあります。また、運動不足の患者さんには理学療法士を紹介して、具体的な運動の仕方を説明してもらっています。

疲れたらとにかく寝ます。思う存分寝てリフレッシュしています。

薬剤師

鈴木諒さん



治療継続率の調査に参加したり、論文執筆に携わっています。2015年4月から服薬指導を始めたばかりなので、患者さんに説明するたびに「もっとうまくできたんじゃないか」と反省しています。ネットで薬剤の情報を詳しく調べている患者さんも多くて、添付文書を読みこんでいる患者さんもいますから気を遣いますね。副作用に敏感な患者さんと1時間以上話したこともありますが、粘り強く説明して納得してもらいました。

子供の頃からサッカーが好きでした。今では、千葉の薬剤師会が主催するフットサルチームに所属して、仕事が終わった後に週1回のペースで参加しています。

